

ニュース JAFIC EYE №230

10月のマイワシ・さば類・マアジの漁況について

1. 太平洋側のマイワシについて

○道東まき網：10月の水揚量は9月を上回り、好調な漁模様が継続した。群れは9月よりもまとまり、1網当たり漁獲量は平均172トンであった。漁場は釧路～花咲沖に形成され、日によって十勝沖にも形成された。水揚物は体長16.5cm、体重50g主体(2～3歳魚)で、90g以上の混じりは少なかった。10月の釧路港への水揚量は9月及び前年を上回り、価格も9月を上回り、前年並みであった(表1)。

表1. 釧路港におけるマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
9月	41,117.0	33.0	45,350.0	31.0	1.1	0.9
10月	44,051.0	35.0	48,658.9	35.0	1.1	1.0

(出典:おさかなひろば)

○道東沖棒受網・たもすくい網：花咲港への10月の水揚量は9月及び前年を下回った(表2)。1日当たり水揚量は9月下旬から引き続き10～20トンであった。水揚物は体長17.5cmモード、体重60gモード(2～3歳魚)であった(図1、2)が、80～90g前後のサイズも10～20%混じった。9月と比較するとこのサイズの割合は高くなった。

表2. 花咲港におけるマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
9月	951.5	54.0	695.8	42.0	0.7	0.8
10月	952.9	52.0	101.1	53.0	0.1	1.0

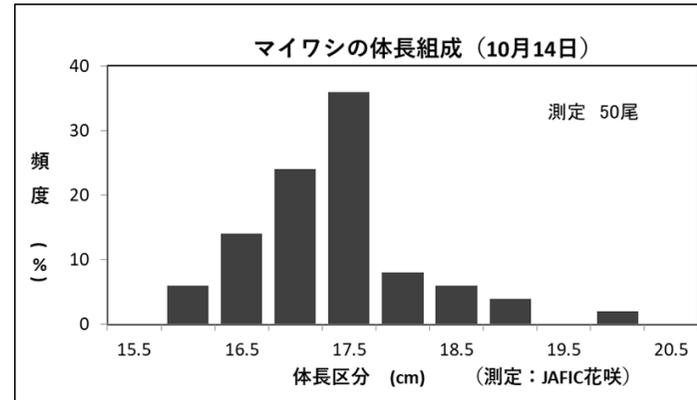


図1. 10月14日花咲港水揚のマイワシ体長組成

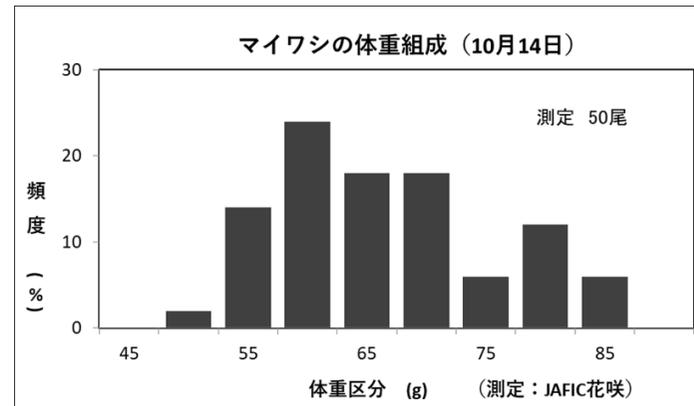


図2. 10月14日花咲水揚のマイワシ体重組成

2. 日本海側のマイワシについて

○境港：10月の水揚量は9月を下回り、前年を上回った(表3)。水揚物の主体は体長12cm、体重20gにモードを持つ0歳魚であった(図3、4)。0歳魚の水揚は7月下旬に始まり、8～10月も継続しており、加工原料や養殖餌向けに出荷されている。

表3. 境港におけるマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
9月	2,628.0	52.0	4,833.0	43.0	1.8	0.8
10月	1,076.5	55.0	1,778.0	46.0	1.7	0.8

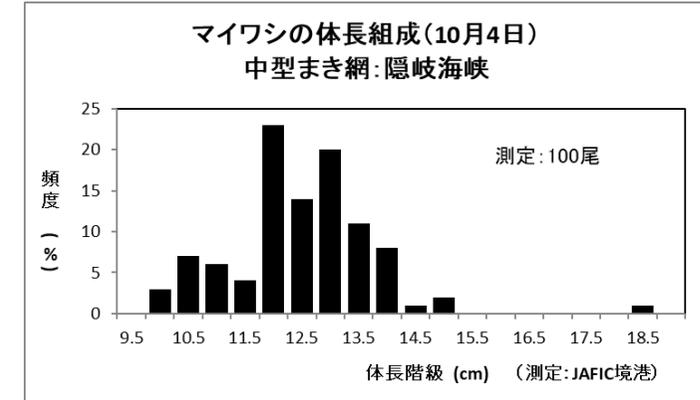


図3. 10月4日境港水揚のマイワシ体長組成

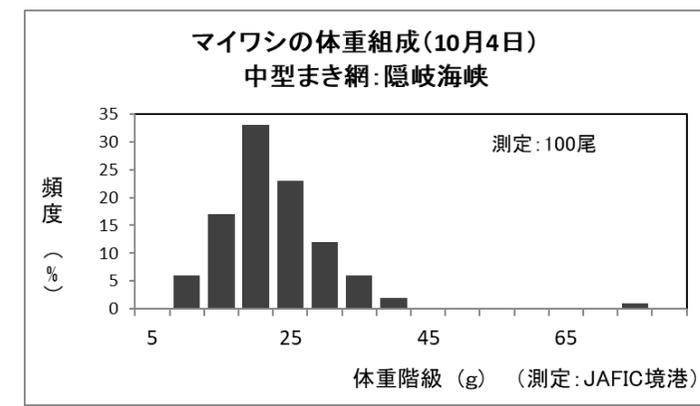


図4. 10月4日境港水揚のマイワシ体重組成

3. 太平洋側のさば類について

○八戸港：10月の水揚量は9月及び前年を下回った(表4)。水揚物は体重300～400g台(3歳魚)であった。漁場は八戸沖に形成され、南下群と考えられるサイズが水揚げされている。

表4. 八戸港におけるさば類の水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
9月	537.0	207.0	447.3	120.0	0.8	0.6
10月	3,278.0	78.0	3,797.8	88.0	1.2	1.1

4. 日本海および東シナ海側のマサバについて

○松浦港：10月は九州西沖海域主体に操業が行われ、水揚量は9月及び前年を上回った(表5)。1隻当たり水揚量も過去5年平均を上回っており、11月以降も九州西沖主体に好調な水揚げが期待される。遠洋旋網漁業による長崎港水揚分は、体長(尾叉長)28cm前後、体重300g前後の1歳魚が主体であった(図5、6)。

表5. 松浦港におけるマサバの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
9月	372.7	144.0	882.9	115.0	2.4	0.8
10月	1,213.0	218.0	1,401.7	213.0	1.2	1.0

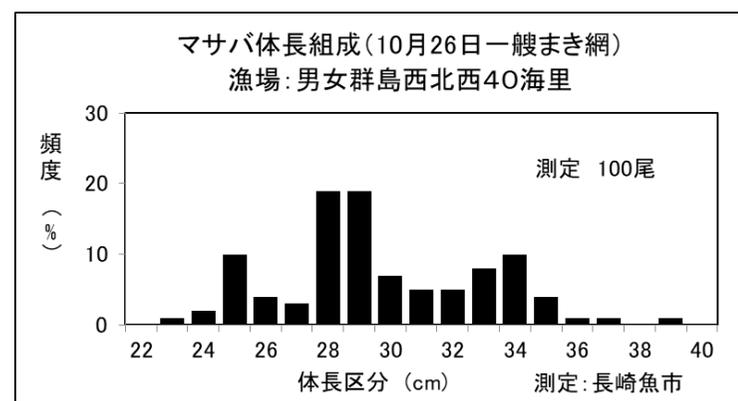


図5. 10月26日長崎港水揚のマサバ体長組成

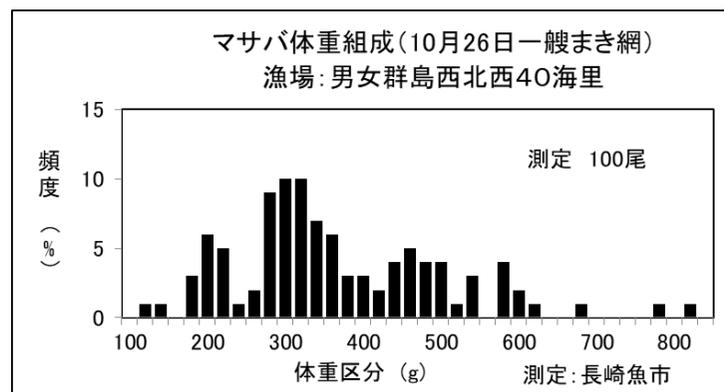


図6. 10月26日長崎港水揚のマサバ体重組成

5. 日本海および東シナ海側のマアジについて

○境港：10月の水揚量は9月及び前年を上回った(表6)。10月も9月に引き続き、隠岐海峡周辺でもマアジが漁獲され、境港へ水揚げされた。浜田～山口県沖でも中小型まき網により引き続き操業が行われたが、9月と比較すると水揚量が減少した。漁獲物は、体長(尾叉長)25～26cm前後、体重260～280g前後の2歳魚で、体長21cm、体重160gに第2のモードがあった(図7、8)。鮮魚向けに出荷されている。

表6. 境港におけるマアジの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
9月	115.0	274.0	521.0	276.0	4.5	1.0
10月	432.5	219.0	898.0	216.0	2.1	1.0

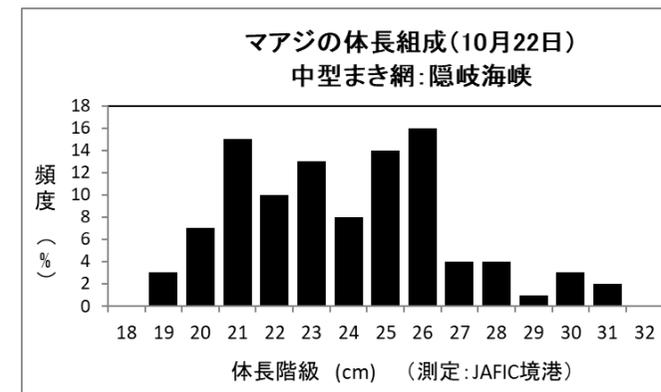


図7. 10月22日境港水揚のマアジ体長組成

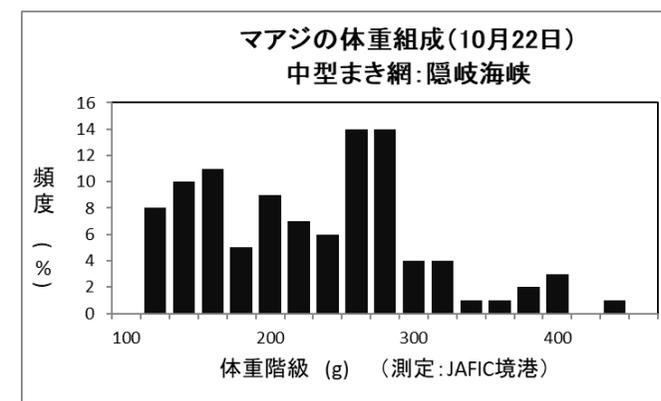


図8. 10月22日境港水揚のマアジ体重組成

○松浦港：遠洋旋網主体の水揚げであったが、10月の水揚量は9月及び前年を下回った(表7)。漁場は主に九州西沖海域であった。遠洋旋網による長崎港水揚分は体長24cm、体重200gモードの1歳魚主体であり(図9、10)、隠岐海峡周辺で漁獲された境港水揚物と同様のサイズであった。

表7. 松浦港におけるマアジの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2020年		2021年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
9月	801.8	262.0	1,251.9	229.0	1.6	0.9
10月	1,025.1	247.0	473.2	277.0	0.5	1.1

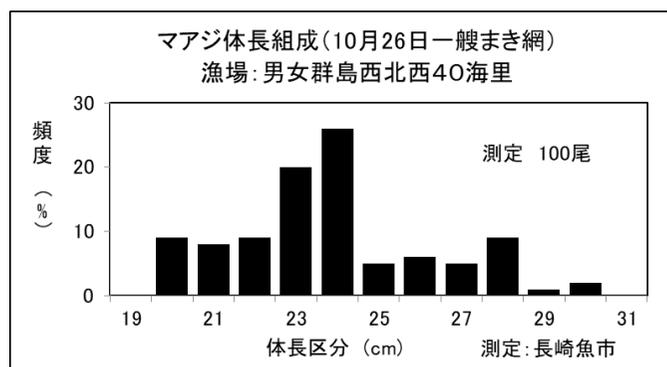


図 9. 10月26日長崎港水揚のマアジ体長組成

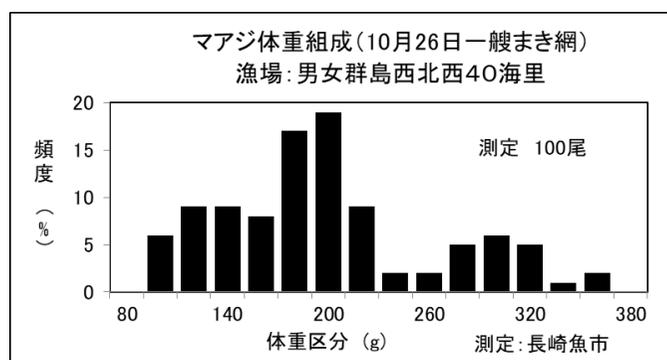


図 10. 10月26日長崎港水揚のマアジ体重組成

6. まとめと11月の動向

10月の太平洋側のマイワシの水揚量は、道東海域のまき網主体に棒受網による水揚げもあった。9月に比べて北方四島水域から道東海域への南下群が増え、魚群がまとまったことにより、1網当たりの漁獲量は9月を上回った。魚群が南下したことにより、花咲沖を漁場とする棒受網による水揚量は減少した。

日本海側のマイワシについては、隠岐海峡周辺での0歳魚対象の操業が続いた。10月は前年を上回る水揚量であったが、前年同様に11月以降はマイワシの水揚量は減少し、マアジ・マサバ主体の水揚げとなっている。

太平洋側のさば類については八戸沖で一艘まき網による操

業が続いた。水揚物の体重は300～400g台であり、南下群の一部が水揚げされたものと考えられる。11月中旬から金華山沖周辺の海面水温が低下し、さらに魚群がまとまりつつある。

東シナ海のマサバについては、九州西沖海域を中心に1歳魚主体の漁獲があった。11月以降もこの傾向が続くと考えられる。また、11月中旬から対馬海域でも漁獲されはじめた。日本海側の浜田沖～隠岐海峡周辺でもマサバの水揚げが続くと考えられる。

マアジについては日本海側では9月に引き続き隠岐海峡周辺で中型まき網による操業があり、浜田～山口県沖でも大・中型まき網による操業がおこなわれた。東シナ海では九州西沖海域主体の操業であった。水揚物は鮮魚として出荷される体長24～26cm(1～2歳魚)主体に11月も操業が続くと考えられる。

(水産情報部)